

令和2年度 学校関係者評価報告書

学校名：あいち福祉医療専門学校

1 学校目標

- ・当事者意識、貫徹意識、学園意識をもって学園ならびに学校経営理念を再認識し、前年度実績を踏まえ、より一層の教育力と協働意識を高めて教育付加価値／学修成果を追求する。
- 1) 自覚を高める自己点検と情報の共有・協働 2) 出席率98%超、退学率5%以内、進級率・卒業率94%超
- 3) 国家試験合格(資格取得)率90%以上、年度内就職率100%(年内70%) 4) 総定員充足率80%(352名)以上の安定確保が目標 5) 遠隔授業研究
- 6) 校友会運営の協働(部会活動の活性化) 7) 介護福祉学科カリキュラム改定、3学科実習指導者研修会取組 8) 新指導要領に沿った介護技術講習
- 9) 出前授業・総合学習受入、実務者研修・総合確保基金研修開講 10) 学園展開の海外との教育連携とともに実際の取り組み
- 11) 介護福祉学科外国人留学生受入促進・教育体系化 12) 他団体の介護福祉士養成システムとの協働 13) 入学生176名(入学生定員充足率88%)の目標
- 14) A0エントリー含む出願者数240名 15) SNSおよびトビックス活用へ三意識をもちホームページ広報の活性化
- 16) 経費削減、教育研究経費・管理経費の在籍数に応じて意図的削減 17) ペーパーレス、オンライン意識・整頓意識定着
- 18) 養成施設指定規則に準拠する教育環境整備および管理 19) 各数値目標の階層的把握
- 20) カリキュラムマップ(AP-CP-DP)に即したロードマップおよび卒業教育展開 21) 情報の共有・協働を見える化するコミュニケーション促進

学校目標に対する評価・意見

- ・理念、目的、育成人材像が定められ、確認になっているが、中学生高校生にもわかりやすく親しみが持てる学校となるよう周知してほしい。
- ・目標に対してP・D・C・Aが実行、実施され、素晴らしい成果が出ていることが凄いことだと思います。
- ・コロナ禍の中、カリキュラムの変更等とても大変だったと思いますが、良く工夫して対応されていると思います。先生のご苦労素晴らしいです。
- ・人口減少の中、生徒を集めるのにはかなりの工夫や他校との差別化が必要と思われますが、多数成果を出し、素晴らしいです。
- ・財務は法人としては充分なのに、自校に対してはとても厳しく、素晴らしいのですぐに改善されると思います。
- ・学科全体で入学率の減少はほぼなく、貴校の就職率・資格取得率の成果が学校を選ぶ強みとなっている。これからも維持して欲しい。
- ・去年の改善方策と今回の内容にあまり変化が感じられないことや、退学率が減少していないのが残念である。理由に上がっている内容を今後どう対応していくかが重要だと思う。
- ・十分な対応をしていると思います。
- ・海外研修については、実習もあり、学生の経済的な事情もあり、難しいと考えます。
- ・現場や高校等との連携も大変しっかりできていると思います。卒業後の教育や卒業生の交流も十分なされていると思います。
- ・総定員充足率は80%を満たさず、入学者の確保に向けて一層取り組んでいただきたい。
- ・退学率は前年度と比較し減少傾向であるが、退学理由は単に学力だけでなく、経済面や学生同士のコミュニケーションも影響していると思われる。ただ学力の向上を目指すだけでなく学生一人一人の個性や環境を把握しながら学生教育や専門職としてのスキルアップを期待する。
- ・最大の学修成果である国家試験合格率について飾ることのない評価をされている。
- ・少子化による入学生、入学希望者減少への取組評価がしっかりなされている。
- ・退学率について評価されているが学生の目標変更などもあるので退学率よりも在学中の出席率の方が重要ではないか
- ・退学率の低減を実施するために、入学時前のオリエンテーションなどの必要性を感じます。
- ・運営が厳しい中、学費を上げずに運営されている姿には頭が下がりました。今は苦しいかもしれませんが、必ず入学者の波は帰ってくると思うので、耐え忍んでください。何かお手伝いできることがあれば、いつでも言ってください。

2 学校自己評価報告書について

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方針が適切か
基準1(教育理念・目標)	4.0	4.0	3.9
基準2(学校運営)	4.0	3.9	3.8
基準3(教育活動)	3.7	3.6	3.4
基準4(学修成果)	3.8	3.4	3.3
基準5(学生支援)	4.0	3.6	3.6
基準6(教育環境)	3.9	3.7	3.3
基準7(学生の受入れ募集)	3.9	3.8	3.7
基準8(財務)	4.0	3.8	3.4
基準9(法令等の遵守)	4.0	4.0	4.0
基準10(社会貢献・地域貢献)	4.0	3.9	3.9
基準11(国際交流)	4.0	3.7	3.6

3 今後の改善意見

- ①介護福祉学科の退学率が高いため、学生の学習能力に応じた対応が必要ではないか。学生の頃より他の職能団体と交流を持ち、研修に参加(無料)、し、仲間作りができることと退学率の低下に繋がるのではないかと。
- ②コロナ禍の中、とても良い業績をあげ、素晴らしいと思います。今後、これを継続し、頑張ってください。
- ③長期的に学生に寄り添い、ニーズを掘り下げ、一緒に問題解決して欲しい。
- ④海外研修に関して調整が困難とあるが、そもそも何故行うのか、研修の目的を示し直し検討したらどうか。
- ⑤現在のままで十分改善策を考えられており安心です。
- ⑥学生のニーズや能力が時代と共に変化する中で、社会人、福祉の専門職として必要な能力を見極めていく。
- ⑦国語力、表現力を高めるような、ロールプレイやカンファレンスなどを取り組む。
- ⑧介護福祉学科地域貢献は認知症カフェ等運営があげられているが、全学科連携した取り組みがもっと行われるとよいのではないかと。
- ⑨教員の研究成果についての支援、実績を明確に示した方がよいのではないかと。
- ⑩各専門職の魅力や今後の可能性等を学校のアピールのみならず、職能団体とともに新入学生対象者等にもっと勧めてはどうだろうか。
- ⑪詰め込みでカリキュラムが進むこと、実習のこと等、しっかり目的を持っていたらいいように指導をお願いしたいと思います。新カリキュラムで実習での休学や退学は改善すると思いますので。
- ⑫これからはPTもOTでもお互いの領域を超えた知識と技術があるので、臨床で役立つ教育をしてほしい。例えばハワイ大学での解剖実習を教育代表者が行き、教員生徒に共有してほしい。ハワイ大学の解剖実習では、死後2週間以内の献体なので、関節も筋肉も固まっておらず、生きた人と限りなく近い、解剖書と実際の死後間もない人体との違いを見てほしい。神経の走行や、筋肉の走行は人によって違うので、解剖書が全てじゃないことも知ってほしい。

4 今後の具体的な改善方針

「学校目標に対する評価・意見」から、「中学生にも分かりやすく親しみが持てる学校」や「退学率の理由・経緯」を踏まえての対応検討。「学生一人ひとりの個性や環境を捉えた教育」「専門職スキルアップ」などに焦点をあて、下記のとおり改善行動に努める。

- ①退学率の減少については毎年の課題であり、ご意見のとおり業界への関心、基礎学力・コミュニケーション力向上等、授業態度情報を共有し、遅刻・欠課に注視した肌目細やかな指導を進める。
- ②肯定評価に甘んじることなく、今後も得る努力を続ける。
- ③学生の気持ち(ニーズ)を理解し、それに沿った指導ができるよう教員力(特に担任力)の向上に努める。
- ④海外研修については、研修の目的や目標を海外の福祉・リハビリ事情の視察、研修などのように明示する企画で募集し、実施に取り組んだことが過去にあったが、カリキュラムの調整が優先となり、企画に基づく募集・勧誘が二の次になってしまい、体力的・精神的な余力が無い中でプラン提示では学生の興味・関心を導き出せなかった。スムーズなカリキュラム運営や国試合格率の安定を見ながら、例えば数日という短期の海外教育機関の研修大会や記念学術大会など具体的に検討できるようにする。
- ⑤改善方法・取組について、今後も改善案を提案継続する。
- ⑥この点(専門職能力)についても教員力の向上が不可欠と考える。学生と向き合う指導をこれからも続ける。
- ⑦日ごとの指導において、読み書きや発音強化のウェイトを年々増加しているが、学生の質の変化も含め十分に対応できているとは言えない。まずはカリキュラム進行が優先となるが、もっと自発的な言動ができるよう、授業の内容(アクティブラーニング等)も含めて検討していく。
- ⑧認知症カフェについては現状学科単位の運営であるところ、恒常化した後、各科の協力をを整えつつ規模拡大を図る。各科からまずは自科の運営でどのような地域貢献ができるかを検討していく。
- ⑨教員の研究成果について、現状は個人で参加する大会の発表程度となっている。限られた時間と予算の中であることから、今以上の支援は難しいとせざるを得ない。ただし、その成果の公開については大会内での発表に留まらないよう工夫すること、また教育方法・技法領域における教員の研究行動を一層強化できるように検討する。
- ⑩オープンキャンパスで高校生や本校に興味を持っている方に接する時間は限られることから必要最低限の紹介となり、HPを含めたSNSでの発信も「難しい」という情報提供しているところ、今後はその条件の中で学校以外の関連内容について学校生活から資格取得後の職場生活まで、職能専門職として職能団体活動とともにストーリー性ある紹介を検討する。
- ⑪入学前に持っていたそれぞれの「夢」と実際の学校生活のギャップが大きくなりすぎないように、オープンキャンパス時の学校紹介でも実情を伝えていく。自分が思っている学修のハードルがどの程度であるかを入学時に担任は面談等で早期に把握し、そのギャップを埋めるよう今後も指導していく。
- ⑫ハワイ大学一つの場合と比べられ、医療福祉現場での知識習得を常に検討し、時間と予算に限りがあるなかで、現状のように研修に出ている先生の輪も含め、得たものの提供が在校生にできる環境づくりを柔軟にする。